

# みの〜れと出会ってあっという間の10年でした

百花繚乱のこの美しい季節は出会いと別れの季節でもあります。枝見太郎さんは、文化芸術と住民をつなぐ推進役として、文化芸術を基軸とするまちづくりや、館の事業計画・運営に携わり、先月退任されました。みの〜れを我が子のように可愛がっていたいただいた、東京都にお住まいの枝見太郎さんを取材します。



前 小美玉市地域文化コーディネーター

えだ み た ろ う  
枝見 太郎 さん

「みの〜れに関する話は尽きないですよ」  
と笑顔で語る枝見さん

みの〜れと共に生活するスタイル  
Minole Life  
のすすめ  
No.175

枝見さんは2012年4月に新設された小美玉市地域文化コーディネーターと、四季文化館のふれ企画実行委員長に就任しました。10年間毎月みの〜れに通い続け、約200回も往復したとのこと。

枝見さんにみの〜れとの出会いを聞いてみました。「安藤千賀さんという知り合いのジャーナリストがいてその方が住民主体で活動しているみの〜れを取材していました。当時山口館長が住民参画についてのアドバイザーを探しており、最初は安藤さんに声をかけていたそうですが、仕事との両立が難しくお断りしていたそうです。そこでまちづくりについての知見があった僕が紹介された」ということです」と懐かしそうに振り返っていました。

「正直言って山口館長から声をかけてもらう前までは小美玉市の存在すら知りませんでした。そんな大きな市でもない小美玉市が3館も公共ホールを持っていることに驚きましたね。それぞれ住民主導で意思決定をする」と聞き、日本にこんなところがあったんだと大変驚きました。企画実行委員会の始まる時間が19時30分からというのも働いている方々が参加しやすい時間設定ですよ。ただ会議が長引くと帰りの電車が無くなってしまいうので車で来るように変えました」と笑顔で語る枝見さん。

「僕は行政と住民の協働をどう実現していくかがミッションでした。みの〜れは実際に試せる場もあったし、実行する場でもあつた。考えていたことが間違いはなかったという自信にもなりました。特に、みの〜れで働いている人たちは公務員。市の職員の人たちと一つの目標に向かっていくチャンスはなかなかないんですよ。非常に面白かったし、良い経験になりました。みんなそれぞれ一緒に頑張っていると肌で感じるのができました」と振り返る枝見さん。

「4月からのみの〜れがどうなるか、気になるのでホームページをチェックしたりして追いかけるつもりです。行政、住民の皆さんには頑張ってもらいたいと思います」とエールを送っていただきました。

枝見太郎さん、山口茂徳館長、長い間お世話になりました。多くの事を学ばせていただき感謝しております。  
(藤田佐知子)